

被災地 東松島市へ

寄付

マスク35,000枚運搬とボランティア活動

フォトレポート 2011.4/28 ~ 5/1

松浦社長と松浦制作部統括



2500枚入り 14ケース



マスク 35,000枚寄付 八木議員と松浦社長

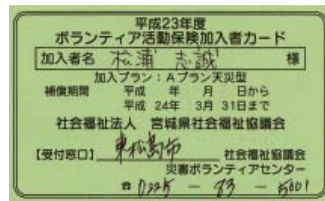
避難所

東日本大震災被災地支援物資
マスク 2500枚入り

提供先
宮城県東松島市赤松町1160-1
東松島市立図書館
八木しづつく

提供先
株式会社コーナルビル
〒912-0037
東京都港区赤坂4-10-1
〒912-0037
〒912-0037
〒912-0037

4月28日夕刻に出発、29日の朝、宮城県東松島市鹿妻学習センターに着した。早速、八木市議会議員に「マスク3万5千枚」を手渡した。ボランティア作業は29日30日と行い、5月1日に被災地を離れた。



保険は無料でボランティア全員が加入書カードが必要。

東松島市で働く知人に、マスクの寄付と、民間の支援センターに、ボランティア活動を申し込みに行った。東松島では千人以上が死亡、行方不明者数百人。1階天井まで浸水、土台ごと家が流されるケースが多数。民家の土砂と流木、瓦礫の撤去がボランティアの作業で、安全な作業では無く、保険を掛けてからの作業である。

作業は硝子や瓦礫で手を切ることが多い、一緒にボランティアをしている数名が怪我をした。消毒は何回もおこなった。



チェーンソーが役に立った。窓に刺さっている流木は運べないので、切断して撤去した。



校舎には天井近くまで津波が押し寄せた跡が付いていた。



キレイに片付いた

ボランティアは瓦礫の撤去作業。窓に流木が突き刺さっていたり、家屋内はヘドロが1メートルぐらい溜まっていた。天井近くまで津波の跡が残っている。ヘドロの悪臭と戦いながらかきだした。次は表に出て、瓦礫と流木の除去作業だ。

ともにボランティア活動を行った仲間たち42名と犬1匹。みんなの顔は疲れているはずなのに、表情に爽快感があった。



松浦社長 松浦制作部統括



2日目は農家での清掃作業。瓦礫を集めて出す。

最初は1日では片付かと思っていたが、人間のパワーは素晴らしいと思った。みんなで協力しあえばできるものだ。私自身パワーをもらった。



またボランティア活動を続けたいと思っている。次回は公私ともに、みんなに呼びかけたい。

道路の整備は自衛隊。道端の瓦礫は市が整備する。被災した家の瓦礫は道端まで住人が運ばなくてはならない。1人だとなにもできない。途方に暮れるしかないのが現状だ。

家、仕事、家族を亡くして、夢も希望もない人たちが、われわれボランティアに「ありがとう、ありがとう」と言いながらコーヒーを出してくれ。何を言えいいのか？言葉が出なかった。

古い家は土台からながされ、新しい家が何件か残っている。道路は整備されているが、両脇の瓦礫は放置されたまま。瓦礫の整備撤去は申し込み順になっている。

